

令和6年2月5日14時00分
近畿地方整備局
大阪国道事務所

道路交通の新たなモニタリング手法に関する現地実証実験(社会実験) の参加者を2月5日から募集開始!

～大阪・関西万博会場周辺道路等で、デジタル技術を活用した新たな交通マネジメントを実践～

近畿地方整備局は、より効率的な交通マネジメントを行うため、デジタル技術を活用した道路交通の新たなモニタリング手法に関する現地実証実験(社会実験)の公募を本日より開始します。

【社会実験の公募概要】

- 受付期間: 令和6年2月5日(月)～令和6年2月26日(月)
- 実験期間: 令和5年度～令和7年度(令和7年12月28日まで)
- 実験箇所: 大阪国道事務所管理道路、大阪・関西万博会場周辺道路
- 募集内容: 以下を満たす交通モニタリング技術を用いた実験参加者を募集する。
 - 従来の固定式の CCTV カメラによる交通モニタリング手法に代わり、容易に持ち運び、移動が可能であり、通常時に加え災害・事故時にも活用可能なモニタリング手法であること。
 - AI 等による画像処理により、自動車や人の交通状況(交通量・渋滞状況(滞留長等)・雑踏状況(人の密度等)等)を、リアルタイムに道路管理者等へ情報提供が可能なものであること。
- 公募要領等: 詳細は、別添、公募要領を参照してください。
公募要領や【様式】公募申請書は以下のウェブサイトからダウンロードできます。

<https://www.kkr.mlit.go.jp/osaka/works/monitoring/>

<取扱い> _____

<配布場所> 近畿建設記者クラブ、大手前記者クラブ

<問合せ先> 国土交通省 近畿地方整備局 大阪国道事務所

副 所 長 あしたに じろう 芦谷 次郎 (内線205)

地域調整課長 もり あやひろ 森 文彦 (内線461)

TEL : 06-6932-1421(代表)、FAX : 06-6932-1430

道路交通の新たなモニタリング手法(概要)

取り組みの目的

現状の交通モニタリング手法の課題に対し、デジタル技術を活用した新たな道路交通のモニタリング手法を導入することでより効率的な交通マネジメントを行う

現状のモニタリング手法

パトロール

CCTV

渋滞監視員



管理延長に対するCCTVカバー率約4割(R5.6現在)
※CCTV計測カバー率:設置したCCTVカメラで見通すことができる道路の延長/道路延長

現地の車両滞留最後尾に滞留長確認のための人員を配置 (CCTVで確認不可の場合)



現状での課題

- CCTVは場所が固定され、また、全延長をカバーできていないため、モニタリング体制が不十分
- 情報伝達に伴うタイムラグが生じる
- 人為的であり間違い、見落としが生じる可能性
また、監視等を行う人員確保が必要

期待されるモニタリング手法

- 臨機、柔軟に場所を変動できる
少ない台数で広い視認範囲
- リアルタイムに情報伝達
- AI等のデジタル技術を使い、正確に
道路交通状況等を把握

道路交通の新たなモニタリング手法(概要)

デジタル技術を活用した新たな交通モニタリング手法の実証内容

① 直轄国道での実証

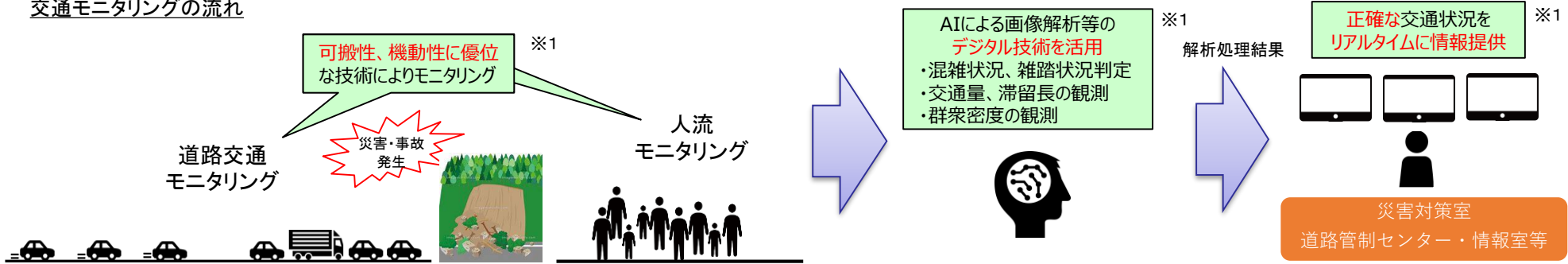
- 災害や事故はどこでも起こり得る可能性がある。また、現場付近の交通状況は刻一刻と変動し、モニタリングが必要な場所も変動
- 直轄国道は交通量が多く、また大型車も多く通行するなど、交通量、渋滞状況等を正確に画像解析し、リアルタイムに情報提供をおこなう技術の検証の場として相応しい。直轄国道での今後の活用を目指す。



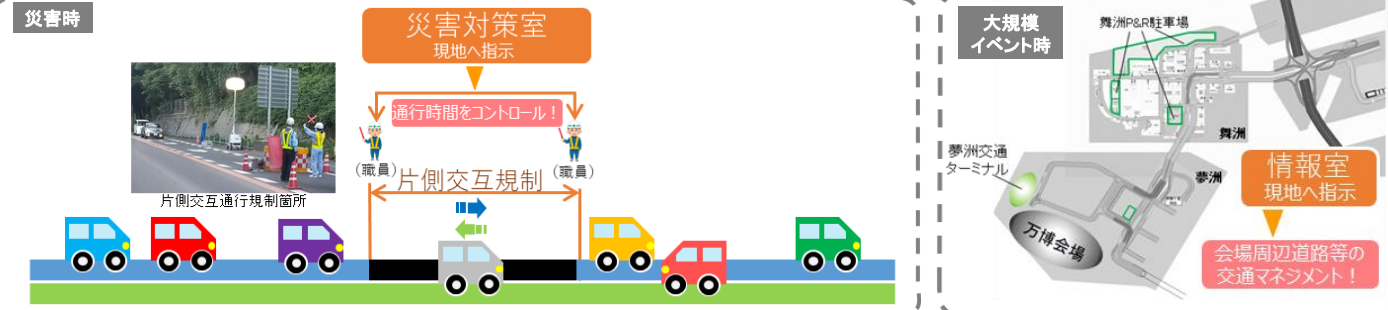
② 大規模イベント時での実証(2025大阪・関西万博)

- 大規模イベントは開催期間が限られ、恒久的に交通モニタリングを必要とせず、CCTV等の固定式は非効率となる懸念から少ない台数で広範囲を視認でき、場所・時期・時間帯を柔軟に変えることが可能な交通モニタリング手法が期待される。

交通モニタリングの流れ



交通マネジメント(例)



※2 実証の具体的な場所等は、協議の上決定

※1 本実証部分(予定)